

2013年は  
大隅国建国から1300年

# 長門本 平家物語 ゆかりの史跡を歩く

観光ルート(隼人駅から)・・・①～⑤、⑨、⑩、⑬、⑯、⑰(1時間45分コース) ⑳、㉑(2時間30分コース)

## 霧島市 隼人宮内



### 1 留守氏館跡(るす)

留守氏は、元は「尾」の姓。貞治2(1363)年、留守左衛門入道景隆が初代として京都石清水善法寺から来たといわれている。現在の当主は16代目。トッパが任命されていない時の留守職からなるとしている。発掘調査で、礎を取り囲む礎石が見つかっており、今も高さ3mの土塁が残っている。出土品に朝鮮の高麗青磁やタイの青磁、近畿・東海地方の焼き物などがあがる。



### 2 最勝寺館跡(さいしょうじ)

最勝寺氏は、元は「藤原」の姓。寛治年間(1087～94)下向。子孫が今でも住んでいる。戦後、宝篋印塔・五輪塔・宝篋印塔・宝篋印塔などがあがり、発掘調査で、深さ4mの礎石や中国の青磁、白磁、タイの藍などが見つかった。



### 3 沢氏館跡(さわ)

沢氏は、元は「藤原」の姓。承和9(842)年下向といわれている。税などを責める田所職。鎌倉時代の石造、五輪塔、自然石等が現存し、発掘調査で、礎を取り囲む礎石や中国の青磁、白磁、タイの藍などが見つかった。



### 4 桑幡氏館跡(くわはた)

隼人族の先祖「火輪降命」の子孫で、悪名をもちたどられている。第53代景長(清和)は平清盛とも親交があり、「平家物語(隼人本)」にも登場する。発掘調査では、堀跡がわかっており、100m四方の規模であった。清和の中国・朝鮮・タイ・ベトナムの焼き物、茶碗のお茶の道具なども出土している。鹿ヶ谷事件で、彼等とともに流された藤原成経やその恋人、伯耆島が来たと長門本に記されている。



### 5 鹿児島神宮(大隅正八幡宮)

大隅一宮。天津彦彦火瓊杵尊(火瓊杵尊)・山彦尊(神武天皇の祖父)・皇玉比売命・仲哀天皇・神代天皇・比叡天皇・中世比売命などを祭る。大隅正八幡宮とも呼ばれる。和暦708年に創建したといわれ、「延喜式」(927)に鹿児島神社として登場する。建久2(1212)年(1207)年によると、大隅郡の半分近くを社領としていた。明治以降は、神仏分離令で仏教を切り離し神道のみとなる。宝物には、国の重要文化財である鎌刀、お祭りには馬鹿(初午祭)がある。



### 6 鳥居

鳥居は二つあり、辻の角交差点近く一之鳥居、三之社付近のもの二之鳥居である。二之鳥居は明治40年に、加治木の小杉屋右衛門が奉納した。小杉氏は西郷隆盛の陣痛を治した人物といわれている。



### 7 三之社(みつのやしろ)

第一の社は鎌倉景長、第二は武藏権命・経津主命・香取大明神、向かい側に大隅命が祭られている。大隅命は隼人族の祖先、火輪降命(降命)とされる。



### 8 宮坂貝塚

およそ7,000年前に積もったといわれているアカホヤや火山灰層の下から見つかった。縄文時代早期の貝塚で、標高約30mの場所にあり、当時は、近くまで海が入り込んでいた。宮坂貝塚の発見により鹿児島神宮の建てられた場所が、縄文時代から居住した場所であったことがわかった。



### 9 霧島市立隼人歴史民俗資料館

宮坂貝塚出土品や隼人族・鹿児島神宮に関する資料などを展示している。また、初午祭などの民俗芸能資料や民具も展示されている。



### 10 弥勒院(みろくいん)

大隅正八幡宮の別当寺。密性空(960年頃の人物)が開いたとされる。享保8(1723)年上野義永寺末寺として再興されるが明治維新の廃仏毀釈で消滅する。跡地に宮内小学校が建てられている。発掘調査で、多量の海外の焼き物、中国・朝鮮・タイ・ベトナムや国内産陶磁器が出土している。中には、飛騨瓦と呼ばれる珍しい元時代の青磁もみられた。



### 11 弥勒堂(みろくどう)

高さ1丈6尺の弥勒仏を安置している。享保9年(1724)年正堂の山から弥勒院境内に移される。池津から1体の像の彫刻した三尊が見つかっている。



### 12 狛犬

元々は、神宮の参道入り口にあったといわれている。石で動物の形が作られており、背中は甲羅状をしている。口は閉じられており、狛犬のようなものとしたら、「狛」形と思われる。



### 13 宮内原用水路

江戸時代に作られたもので、天満川の天水源付近から流すまでのおよそ10kmの用水路。正徳元(1711)～正徳6(1716)年に工事が行われ、およそ500町歩が開された。



### 14 祖霊社(それいしゃ)

神宮の敷地内にある供養塔と思われる石塔が多数ある。大半は江戸時代のもの。



### 15 宮坂館

天保2(1831)年、大隅正八幡宮の御印行儀の棟、宮坂館で石が割れ、その中から「八幡」の文字が現れたという「石塔事件」の記録が石清水文書にあり、その現象が朝廷に認められ、神宮の権威が高まった。



### 16 石体神社

宮坂館での話が朝廷に伝わると当時の崇徳天皇に皇子が生まれる吉兆と解釈され、回りまわって「石体神社」は安産の神様となっていた。この周辺は鹿児島神宮があった場所とされる。



### 17 神代高千穂宮跡碑

初代神武天皇の祖父にあたる彦火瓊杵尊が都を構えた場所として、紀元2,600年の昭和15年に記念碑が建てられた。



### 18 古代官道

古代の大隅国府から大宰府へのバイパス。今の国道や高速道路にあたり、石清水文書の中の「往古大途字坂蓋版」の記録から、ここに古代の大きな道があったと考えられている。



### 19 正興寺跡

神宗系の臨済宗の寺。本尊は釈迦如来。大隅正八幡宮の三ヶ所の一つ。創建は承永年間(1293～1298)で、3代目のおおむねには鹿児島に朱子学を広めた桂庵和尚、4代目には数橋伝来を記録した文之和尚がいる。



### 20 蛭児神社(ひるこじんしゃ)

大隅国二之宮。祭神は蛭児神。寛延3(1750)年にこの地に遷される。遷座前の場所からは神鏡が出土したとされ、現在資料館に展示されている。そのひとは唐の海客胡僧で他は和親。蛭児が漂着した時に使った「みぞお」が活躍したと伝えられる珍しい金箔竹が境内にあったが、現在は小指大のものが残っている。漁業・航海・商売の神様。



### 21 ナゲキノ社

ナゲキノ社は歌仙に登壇する。国分地区には「こがの杜」、「気色の杜」、「小鳥の杜」などもある。これらの「杜」は墓地、祟り、祖霊社などの関わりがあったと考えられている。



### 22 空原上人入定石室

空原上人という真言宗の僧が、腰を立てて生きたまま石室にこもり、亡くなっている。祈りにより、数々の奇跡を起こし、何久根の大火は止められ、日照りのときに雨を降らせたりしたといわれている。火の神様。



### 歴史ロマン 鳩脇の港

鹿ヶ谷の陰謀で有名な、備後賢と藤原成経、平康頼等が鬼ヶ島に流されていった港。



### 歴史ロマン こがの杜

藤原成経の恋人、伯耆島が成経を待ちつづけ、亡くなった場所といわれている。国分府中にある。



### 神話ロマン 蛭児神社

蛭児神社の祭神「蛭児神」は、第7神イザナギ、イザナミの間に生まれた神様。蛭児神は3歳になっても足腰が立たず、それを嘆いて二神は高天原から天磐船で流された。そして流れて着いたのがこの地だということである。天磐船からは不思議なことに枝や葉が出てみるうちに楠の大木となった。その楠の木から葉が落ちてナゲキノ社一帯に繁茂したとの事。大楠は、数千年の後行方不明で今は切り株だけになっている。



### 歴史ロマン 十三塚の伝説

昔、宇佐神宮と大隅正八幡宮が本家争いをした時、宇佐から14人の神官が来て、芋茎を使って大隅正八幡宮を焼いた。すると、煙の中に「正八幡」という文字が現れた。恐ろしい場所が十三塚と呼ばれる。近くには「大道」などの小字があり、古代官道が通っていると考えられている。



関連史跡  
こがの杜  
気色の杜  
大隅国府  
国分寺

平家物語ゆかりの史跡を歩く  
<http://www5.synapse.ne.jp/shinkodo/hayato/heikemonogatari.html>

地域情報誌 モンター  
<http://www5.synapse.ne.jp/shinkodo/moss/mossium.html>

作成 隼人宮内会 会長: 曾山純廣  
事務局: 080-1736-0852 (松元)

協力 隼人工業高校 美術部インテリア科 霧島市教育委員会

印刷 徳国分進行業